

検証の範囲と方法について (案)

平成26年4月18日

独立行政法人日本原子力研究開発機構

改革の理念

- 原子力機構のミッションを的確に達成する「強い経営」を確立する
- 国民の信頼と安心を回復すべく安全確保・安全文化醸成に真摯に取り組む
- 事業の合理化を実行する
- 「もんじゅ」改革を断行する

検証の範囲(基本的考え方)

- 改革計画に示す改革理念に照らして改革が適切に進展していること。

具体的には、改革計画に示す課題の解決に向け進展していること。ただし、その計画期間等から集中改革期間終了時点においては、その確認が困難なものについては、効果が発揮されるような仕組みや枠組みとなったかを検証する。

類型及びその内容

改革計画における各実施内容は、問題及び対策の性質や実施期間等により多様となっていることから次の類型に区分しその妥当性を検証いただくこととする。

- **効果確認型**
主たる対策として効果の発揮を目的とするもの
ただし、効果の確認には長期間を要するものについては、集中改革期間終了時点において、効果が自律的に発揮されるような仕組み(制度)となったかを検証する
- **環境整備確認型**
主たる対策として施設・制度の整備を目的とするもの
- **方針策定確認型**
主たる対策として将来の方向性を定めることを目的とするもの

評価方法

評価の視点を踏まえ、類型ごとに次のポイントを示し、機構が自己評価することとする。

- **効果確認型**
 - ・意識調査結果等を通じて得られた結果
 - ・具体的に効果の確認できる事例
 - ・継続的・自律的に効果が発揮される仕組み
- **環境整備確認型**
 - ・設備の整備や制度の改正等の結果及びその内容
- **方針策定確認型**
 - ・検討のプロセス及び手法
 - ・検討結果

検証方法

上記の評価方法にて機構が自己評価した結果を原子力機構改革検証委員会にお示しし、確認・検証いただく。

検証の具体例

検証の具体例は次のとおり。

項目(例)	類型	検証の対象(例)		具体的な確認事項(例)	自己評価の方法
組織の再編	効果確認型	強い経営が確立されたか		<ul style="list-style-type: none"> ・トップマネジメントによるガバナンスが十分に機能する体制となったか ・業務運営の機動性が高まったか など 	効果(事例の内容)及び職員意識調査の結果を評価
事業の合理化	方針策定確認型	事業の合理化の方向性は定まったか		<ul style="list-style-type: none"> ・計画の検討プロセスは妥当か ・事業規模の適正化を図る方向性は定められたか ・中期計画等の経営計画に反映されたか など 	検討のプロセス及びその結果を評価
安全文化・安全文化醸成	効果確認型	役職員の意識改革がなされたか		<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保を最優先とする理事長方針が役職員に浸透したか など 	主に職員意識調査の結果を評価
J-PARC改革	環境整備確認型	安全に運転するための体制が整ったか	実験施設の安全対策に関する課題は解決されたか	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の強化対策は整ったか ・制度及び基準は適切に変更されたか など 	実施のプロセス及びその結果を評価
	効果確認型		安全文化が醸成されつつあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・J-PARCセンター全体に安全意識が浸透したか 	主に職員意識調査の結果を評価
「もんじゅ」改革		もんじゅ安全・改革検証委員会の検証結果を確認			

対策実施部署

もんじゅ安全・改革室

